

令和2年度 北秋田市総合戦略検証会議

検証シート(地方創生推進交付金事業)

1. 地域連携DMO秋田犬ツーリズムによる観光振興事業
2. 地域産品磨き上げ事業

北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 検証シート

事業名	地域連携DMO秋田犬ツーリズムによる観光振興事業	担当部課名
総合戦略基本目標	基本目標1 産業振興による仕事づくり 1-④ 観光・レクリエーションの振興	商工観光課観光振興係
交付金 種別	地方創生推進交付金	
事業目的 (一覧表F列)	平成29年11月に日本版DMO法人として登録された『一般社団法人秋田犬ツーリズム』を中心とし、市町村の枠を超えた連携を通じて稼げる観光地域づくりを進めている。プロモーションの中心に秋田犬を据えた取り組みを進めた結果、外国人旅行者が増加傾向にあることから、当地域の目的地としてのポテンシャルは高く、今後も外国人旅行者の増加による経済効果が十分に見込めることから、従来のターゲットである台湾へのアプローチは続けつつ、「秋田犬」という強力なキラコンテンツを活用して世界中の動物好きへのアプローチを積極的に進め、来訪者、とりわけインパウンドの増加につなげる。また、体験・ストーリーを重視する欧米からの富裕層の個人旅行者、アジアの先進地域からの富裕層を明確にターゲットに加えるとともに縄文犬としての秋田犬、マタギという狩猟文化やそれにつながる食文化を前面にだした芸能・体験・食を提供し当地への来訪を目指す。	

事業費	総事業費(入力シートD列)	交付金実績額(入力シートE列)
	53,461,000円	26,730,500円
KPI	指標及び目標値(入力シートG列)	実績値(一覧表H列)
	<ul style="list-style-type: none"> 旅行消費額:48,558百万円 訪日外国人宿泊者数:21千人 延べ宿泊者数 393千人 観光振興事業が地域に与える経済的効果:480百万円 目標年月:2020年3月	<ul style="list-style-type: none"> 旅行消費額:28,812,475,268円 訪日外国人宿泊者数:10,825人 延べ宿泊者数 392,439人 観光振興事業が地域に与える経済的効果:4,125,000,000円 目標年月:2020年3月

事業の概要(一覧表I列)	
<p>来訪者拡大に向けてRESASやSNSワードクラウドを活用して著名な観光地の誘客ターゲットや外国人旅行者の地方への周遊動向などについて、他地域との競合分析やマーケティング、情報発信を進めながら、当エリアを北海道・東北周遊ルートのひとつにしっかりと位置付けるために、体験やストーリーを重視した新商品・サービスの投入、受け入れ体制整備により、来訪者の満足度向上と滞在時間を延ばす取り組みを進める。古民家や農家民宿、歴史的建造物などでの旅行者受け入れ体制の整備を行う。</p>	

◆担当部署による自己分析(各項目5点満点、総計45点満点)

妥当性評価	14	有効性評価	13	効率性評価	13
市が関与すべき事業か	5	事業は効果的か	4	他に効率的な手法はないか	4
市民のニーズは高いか	4	成果が期待できるか	4	コスト削減の余地はないか	4
目的・対象は妥当か	5	政策目標の実現に貢献しているか	5	受益者負担は適当か	5

総合評価	今後の方向性	事業の取組状況と今後の対応方針について(入力シートJ列)
40	現行のまま継続	外国人観光客の増加に向け、デジタルマーケティングに注力し、狙ったターゲット層を中心に情報を発信を行う。また、エリアブランディングを進め、満足度を向上させる仕組みを作る。

----- 以下は検証会議で使用 -----

◆検証会議による客観的検証

妥当性評価	14	有効性評価	15	効率性評価	13
市が関与すべき事業か	5	事業は効果的か	5	他に効率的な手法はないか	4
市民のニーズは高いか	4	成果が期待できるか	5	コスト削減の余地はないか	4
目的・対象は妥当か	5	政策目標の実現に貢献しているか	5	受益者負担は適当か	5

【参考:評価基準】

総合評価	検証会議による評価	【検証会議 評価基準】
42 / 45	A	A かなりの効果がある B 相当程度の効果がある C あまり効果が見られない D 効果が乏しく改善の必要ある

5	4	3	2	1
的り全、 、く 最大そ 適変の で効と 果お る	切り、 で、 あ効 る果 と 的 ・お 適	概ね 、ね そ ら と も い え	余検 地討 が改 善す る	適い全 切、く で非 効そ あ効 る果 と も い え

北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 検証シート

事業名	地域産品磨き上げ事業	担当部課名
総合戦略 基本目標	基本目標1 産業振興による仕事づくり 1-③ 商業の振興	商工観光課観光振興係
交付金 種別	地方創生推進交付金	
事業目的 (一覧表F列)	平成28年4月1日に大館市・北秋田市・小坂町の3市町が連携して一般社団法人秋田犬ツーリズム(地域連携DMO)を組織し、交流人口増加の取り組みを進めているところである。これに連動して地域産品の磨き上げや販売強化を図り、観光・物産が車の両輪のごとく一体的な取り組みを行うことにより、地域産業の振興、地域内事業者の起業や所得向上が図られる。 観光と物産を活用したビジネスモデルを確立するためには、宿泊・飲食・土産・体験の要素を有機的に連携させ、それらをうまく発信するとともに、事業者の取り組み意識を向上させることが重要となってくる。推進に当たっては、エリア内の物産情報を一元的に発信するとともに、観光業、商工業、農業分野などの異業種が一体となって事業に取り組む体制づくりが必要であり、多様な関係者との合意形成が可能な組織である秋田犬ツーリズムがその機能を担い、地域連携によるスケールメリットを生かしながら情報発信やマーケティング、6次産業化を進め、地域産業の振興、事業者の所得拡大を図る。	

事業費	総事業費(入力シートD列)	交付金実績額(入力シートE列)
	2,100,000円	1,050,000円
KPI	指標及び目標値(入力シートG列)	実績値(一覧表H列)
	<ul style="list-style-type: none"> 枝豆加工品の販売額 233,107,200円 地域資源を活かした新商品の開発 15件 地域資源を活かした起業件数 1件 目標年月:2019年度末時点	<ul style="list-style-type: none"> 枝豆加工品の販売額 35,943,007円 地域資源を活かした新商品の開発 1件 地域資源を活かした起業件数 0件 目標年月:2019年度末

事業の概要(一覧表I列)	
<p>マーケットインによる地域資源商品の磨き上げ、ブランド化、高付加価値化を進めるための関係者の合意形成とそれによる効果的な取り組みを行う。観光客の興味や満足度を高め、購買意欲を喚起するため、既存の土産品や食などについて、価値向上や新たな付加価値を創造する。それぞれの分野で活躍している外部専門家の知見を最大限に活用し、セミナー開催や商品開発ワークショップ、ブランド化への取り組みを行うほか、市場調査や見本市、レストランプロモーションでのテストマーケティングなど、商工団体や農業団体等が一体となり、「地域産業の総力戦」と位置付けて事業に取り組む。特に枝豆については、本事業による最重点食材として位置付け、国内外をターゲットに加工品の開発や付加価値向上による販路拡大と所得向上を図る。</p>	

◆担当部署による自己分析(各項目5点満点、総計45点満点)

妥当性評価	12	有効性評価	12	効率性評価	10
市が関与すべき事業か	4	事業は効果的か	4	他に効率的な手法はないか	3
市民のニーズは高いか	4	成果が期待できるか	4	コスト削減の余地はないか	3
目的・対象は妥当か	4	政策目標の実現に貢献しているか	4	受益者負担は適当か	4

総合評価	今後の方向性	事業の取組状況と今後の対応方針について(入力シートJ列)
34	統合・縮小	朝採れ枝豆の首都圏流通テスト販売も手ごたえがあり、今後首都圏飲食店をターゲットとした販売戦略を構築する。また海外への販売拡大についてはシンガポールをメインターゲットとし、ブランド構築を図る。

----- 以下は検証会議で使用 -----

◆検証会議による客観的検証

妥当性評価	12	有効性評価	12	効率性評価	10
市が関与すべき事業か	4	事業は効果的か	4	他に効率的な手法はないか	3
市民のニーズは高いか	4	成果が期待できるか	4	コスト削減の余地はないか	3
目的・対象は妥当か	4	政策目標の実現に貢献しているか	4	受益者負担は適当か	4

【参考:評価基準】

総合評価	検証会議による評価	【検証会議 評価基準】
34 / 45	B	A かなりの効果がある B 相当程度の効果がある C あまり効果が見られない D 効果が乏しく改善の必要ある

5	4	3	2	1	
的り全 、く 最大そ 適変の で効と 果お る	切り で、 あ効 る果 的と ・お 適	概ね 、ね 効そ る果 的と ・お 適	など い ら と も い え	余検 地討 が改 善す る	適い全 切、く で非効 あ効う る率 は 不 な